

令和2年度 各区の地域課題の解決に向けた取組状況について

葵区事務局会議・連絡調整会議 事務局

テーマ	① 介護保険との連携②对学校との連携③生活介護の実態調査について
概要 (課題となるポイント)	① 障害福祉サービスから介護保険サービスに移行する際の注意点 ② 学校との連携（生活を支える上での連携・進路判断時の連携） ③ 通所の送迎有無の事業所情報を一覧表にすることで利用希望の方へのロスの少ないご提案が出来る。
詳細 ・現状分析 ex.相談事例（相談者の声） 既存のサービス 既存のデータ	① 障害福祉サービスから介護保険サービスに移行する際の注意点 ・利用料が発生する。（多くが負担0から1割負担へ。その結果、利用時間数が減少するケースがある。） ・障害福祉サービスの提出書類の手順がケアマネに浸透していない。（引き継いだ後に、介護保険サービス非該当という場合もある。） ② 学校との連携 ・生活を支える上で相談支援事業所との連携を期待するが、個人情報の取扱いに慎重な特別支援学校がある。学校側は相談支援事業所との連携を図っていただけるのか。 ・進路判断時に相談事業所が介入しない事で、詳細を精査すると実施困難なケースもあり、卒業寸前で問題が多発するケース、一般就労してもすぐに退職になるケースが多くなっている。 ③ 通所の送迎有無の事業所情報を一覧表にすることで利用希望の方へのロスの少ないご提案が出来る。 ・生活介護通所送迎サービスが、家族の希望に対応出来ておらず、介護負担が減らない現状がある。生活介護等の送迎車は市内を走っている事が多いので、時間や道程がマッチする車輛で何とかそういったケースを連携して改善できないか。 ・生活介護の事業所の送迎や昼食の有無、空き情報等を一覧にすることで、利用希望者のニーズに適切に対応できる事業所を提案しやすくなる。 ・駿府ロマンバスの介護送迎車版の様な自主運行バスが運行できないのか。
事務局会議・連絡調整会議としての解決に向けた取組み ex.市場分析（環境分析） ニーズの把握	①静岡市ケアマネット協会との連携を図り、同協会のケアマネ等会員向けにアンケートを依頼して、障害から高齢福祉サービスへの移行に関する情報収集を図った。 ②全市会議を行った段階で学校側コーディネーターとの連携を深め、学校側も障害者相談員との連携を以前よりも重要視してくださるよう働きかける。 ③本来であれば事業所訪問や面談などの積極的交流を図り現状を把握するべきではあるが、新型コロナの影響もあり、結果的には現状として手つかずの状態。

<p>解決策や今後の方針</p>	<p>①静岡市ケアネット協会との連携を図り、同協会のケアマネ等会員向けにアンケートを依頼して、障害から高齢福祉サービスへの移行に関する情報収集を図った後に、サービス移行に役立てるような連携とツール（引き継ぎフローチャート等）開発を目指す。</p> <p>↳今年度中に継続的な連携とツールのアップグレード</p> <p>②学校側コーディネーターとの連携について、個々の相談員レベルでより一層の密な連携が図れるように意識を向けていく方針とする。</p> <p>↳今年度中と今年度以降にかけて末端の相談員意識強化</p> <p>③解決を図っていきたい地域課題であるので、今年度から来年度にかけてアンケートの原案作成を行い、障害福祉と介護保険の通所系事業者に対して、送迎の強い事業所と弱い事業所の情報収集や情報整理を行っていく。</p> <p>↳今年度から来年度にかけて情報収集の実施とそれに応じた対応</p> <p>その他</p> <p>①については駿河区障害者相談事務局でも同様の課題を扱っているために、連携および情報共有を図って、相互で協力できるポイントを共同していくこととする。</p>
------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

令和2年度 各区の地域課題の解決に向けた取組状況について

駿河区事務局会議・連絡調整会議 事務局

<p>テーマ</p>	<p>地域資源の連携強化と、自立支援協議会・各部会の機能周知</p>
<p>概要 (課題となるポイント)</p>	<p>障害者自立支援協議会は、「地域課題の共有」、「連携の緊密化」、「地域の実情に即した体制の整備」といった役割を担うと定義されている。しかし、障害福祉分野以外の関係機関においてはもちろん、障害福祉サービス事業所等においてすら、その存在と機能は十分に知られておらず、関心も高いとは言えない。地域課題を扱う協議会の存在が地域・現場に浸透していないという現状そのものが、大きな地域課題である。</p> <p>また、事業者や地域資源側からの連携に対する期待は非常に大きいですが、現実的には有効な手段が確立されておらず、各分野・機関が孤立し、結果的に対症療法的な支援に陥っている可能性は否めない。</p>
<p>詳細 ・現状分析 ex.相談事例（相談者の声） 既存のサービス 既存のデータ</p>	<p>駿河区では一昨年度・昨年度と継続してこの課題を取り上げており、2年間で3回（その他、新型コロナウイルス流行の関係で中止1回）、連絡調整会議の名称で、①児童相談所と障害児サービス事業所、②精神科医療福祉と地域包括支援センター（地域移行支援部会ワーキンググループと共同開催）、③駿河区内共同生活援助（グループホーム）事業所といった機関と協力し、協議会活動の周知と地域の福祉資源同士の連携を強化するための会議・意見交換の場を設けた。各回の参加者から回収したアンケートからは、地域連携への強い期待と必要性が読み取れた。</p>
<p>事務局会議・連絡調整会議としての解決に向けた取組み ex.市場分析（環境分析） ニーズの把握</p>	<p>事務局として、高齢介護分野からの以下のようなニーズをキャッチしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に 8050 ケース等について、相談先や相談内容について知る機会を作って欲しいという提案を複数いただいていた。 ・昨年3月の連絡調整会議開催に向けて関係機関との調整中、複数の地域包括支援センターと静岡市ケアマネット協会から、連携強化の取り組みに対する強い賛同と、協力の申し出をいただいた。 ・同会議コロナ禍で中止となった後、今年度に入ってから、区内居宅介護支援事業所職員から、「次回開催はいつになるか」「是非開催して欲しい」といった要望が多く寄せられた。
<p>解決策や今後の方針</p>	<p>R3年2月9日(火)、「第2回駿河区障害福祉×介護保険分野交流講座」と題し、昨年度未開催中止となった、市内地域包括支援センター及びケアマネジャーを招いての交流の機会を設ける（現状、人数を絞って対面開催の予定だが、いずれにせよwebでの配信も行う）。</p> <p>来年度以降も引き続き、区相談支援事務局会議・連絡調整会議を中心に情報を収集し、地域の関係機関の希望に沿う形で、各機関の交流の機会を設定していきたい。また必要に応じて、協議会各部会とのコラボレーション企画等も積極的に開催し、個別の地域課題解決に向けた足掛かりを作っていく。</p>

令和2年度 各区の地域課題の解決に向けた取組状況について

清水区事務局会議・連絡調整会議 事務局

<p>テーマ（継続）</p>	<p>静岡市東部地域（由比・蒲原）の相談支援体制の構築</p>
<p>概要 （課題となるポイント）</p>	<p>・静岡市東部に位置する由比・蒲原地域においては、障害福祉サービス事業所が少なく、障害のある方の障害特性や生活状況に応じたサービス利用が難しくなっている。</p>
<p>詳細 ・現状分析 ex.相談事例（相談者の声） 既存のサービス 既存のデータ</p>	<p>・由比・蒲原地域在住の方は、清水区内の事業所を利用することになるが、近隣には事業所が少なく、気軽にサービス提供を受ける事が難しい。 ・静岡市との合併以前は、各町独自の限られた福祉サービスしかなく、現在の地域住民には福祉的支援の存在や、サービス利用についての情報などが認識されていない可能性が高い。そのため、困りごとに対して予防的支援が行われ難い。</p>
<p>事務局会議・連絡調整会議としての解決に向けた取組み ex.市場分析（環境分析） ニーズの把握</p>	<p>・昨年度に引き続き、出張相談会として静岡市東部地域「障がい福祉相談会」を実施。 5/26（火）COVID-19の影響で中止 7/28（火）相談者5組 8人 9/23（火）相談者0組 11/24（火）相談者2組 2人 1/26（火）、3/24（水）開催予定 （全日とも会場は清水区役所蒲原支所、時間は10:30～15:30） 清水区内の全ての委託相談事業所担当者が同日に全て東部地域相談会に出張してしまうことがないよう、また会場が密にならないよう委託相談3事業所で持ち回り開催とした。定期開催することにより東部地域の関係機関との連携も図ることができた。</p>
<p>解決策や今後の方針</p>	<p>・当面は定期開催を継続し、ニーズに応じて将来的に富士市とも連携していく。（ニーズを元に東部地域にも事業所が開設されるのが望ましい） ・今後も継続して定期開催していくことで、地域の方々にあえてアナウンスしなくても認知されている状態を目指す。 ・地域の方が障害で困ることがない状況や気軽に相談できる場所、雰囲気を作っていく。</p>

令和2年度 各区の地域課題の解決に向けた取組状況について

清水区事務局会議・連絡調整会議 事務局

<p>テーマ（新規）</p>	<p>障害福祉サービス提供事業所間での連携強化</p>
<p>概要 （課題となるポイント）</p>	<p>清水区内の相談支援体制の整備および障害福祉サービス提供事業所の資質向上に向けて、障害福祉サービス提供事業所間の連携の強化を目指す。</p>
<p>詳細 ・現状分析 ex.相談事例（相談者の声） 既存のサービス 既存のデータ</p>	<p>清水区では昨年度まで高齢者福祉関係機関との連携を地域課題として取り上げてきた。障害者支援機関と高齢者支援機関との交流研修を開催し、両機関の連携は進んできた。一方で障害福祉サービス提供事業所間では、お互いの情報が少なく連携が取りにくい現状がある。そのため、各事業所が単独で問題を抱える、支援の量的質的な偏りが生じている様子がうかがえる。 現在、障害福祉サービス提供事業所は清水区内に者・児含め 123 事業所ある（静岡市内全域 449 事業所：2020 年 2 月 1 日現在）が、各事業所について、① 3 障害のうち得意分野はどれか、②どのようなサービスを提供しているか、③どんなケースの時にどの事業所と相談すればよいか、等についての情報が確実に把握できているとは言い難い。</p>
<p>事務局会議・連絡調整会議としての解決に向けた取組み ex.市場分析（環境分析） ニーズの把握</p>	<p>9 月に清水区内の全障害福祉サービス事業所へアンケート《(1)「事業所情報、特色等」、(2)「現在抱えている問題、困っていること、常に直面する問題等」》を実施した。回答率は 87.8%であった。(1)については情報ツールとしてデータをまとめ、クラウドから各事業所がダウンロードして使える状態とした。(2)については清水区連絡調整会議にて意見交換会を実施することとした。 11/12（木）清水区役所清水ふれあいホールにて第 1 回清水区障害者相談支援連絡調整会議を開催。当初の予定では提供サービスごとの情報共有会のスタイルで複数回開催を考えていたが、COVID-19 の猛威が終息を見せず、複数回の開催およびグループワークスタイルでの実施を断念せざるを得なかった。そのため開催回数を 1 回とし、区内すべての福祉サービス提供事業所に声を掛け参集してもらった。参加者 52 名。内容はアンケート(2)に記載された、困っていることや工夫していることの共有がメインとなった。</p>
<p>解決策や今後の方針</p>	<p>清水区障害者相談支援連絡調整会議での参加者アンケートでも97.3%の方がサービス種ごとの連絡会が必要であると考えており（別紙のとおり）、障害福祉サービス提供事業所間の連携について前向きに考えている事業所がとて多いことが見受けられた。 これらの意見をもとに、静岡市自立支援協議会にてサービス種ごとの連絡会の設立を検討していただく。</p>